

## 学校再開ガイドライン（5月28日時点）

茨城県教育庁学校教育部義務教育課

本ガイドラインは、「新型コロナウイルスに対応した学校再開ガイドライン」（令和2年3月24日 文部科学省）、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」(令和2年5月22日 文部科学省)等に基づき、学校再開に当たっての留意点を示すものです。

なお、本ガイドラインは、今後の状況により、必要に応じて改定、追加する場合があります。

### 1 新型コロナウイルス感染症対策の基本的な考え方について

学校生活全般において、以下のことに留意するとともに、咳エチケットや3密（換気の悪い密閉空間，多くの人が密集，近距離での会話や発声）を避ける行動，手洗い，マスク着用について，ポスターを掲示するなどして，啓発に努めること。

また，児童生徒が，発達の段階に応じて，本感染症を正しく理解し，感染のリスクを自ら判断してこれを避ける行動をとることができるよう，「新型コロナウイルス感染症の予防～子供たちが正しく理解し，実践できることを目指して～」(令和2年4月 文部科学省)等を活用して指導すること。

#### (1) 手洗い

- ・流水と石けんでの手洗いを基本とする。（石けんの常時設置を徹底する）
- ・流水による手洗いができない場合などには，アルコールを含んだ手指消毒薬を使用する。
- ・外から建物内に入る時，咳やくしゃみをした時，鼻をかんだ時，トイレの後，給食の前，共用の教材・教具を使用する前後，掃除の後等，こまめに行う。
- ・手をふくタオルやハンカチは個人持ちとして，共用はしないように指導する。
- ・授業時間をずらしたり休み時間を長くしたりするなど，トイレ使用や手洗いが密集しないように工夫する。
- ・児童生徒には，接触感染の仕組みと手洗いの重要性について理解させるとともに，手指で目，鼻，口をできるだけ触らないように指導する。

#### (2) マスクの着用

- ・教育活動においては，基本的には常時マスクを着用する。  
ただし，体育の授業や屋外の活動において，互いに2m程度の間隔があり，大声を発しない場合は，熱中症対策等のためにマスクを外すこともできる。
- ・児童生徒がマスクを忘れたり汚したりした場合の対応として，予備のマスクを用意しておく。
- ・必要に応じ，教育活動において手作りマスクを作成するなどの対応を行う。  
※保体第1815号「各学校等における教育活動の再開に向けたマスクの準備について（通知）」  
（令和2年3月26日 保健体育課）
- ・マスクを外す際はゴムやひもをつまんで外し，マスクの表面には触れずに，内側を折りたたんでビニール袋に入れるなどの扱い方を児童生徒に指導する。また，マスクを置いたり持ち運んだりするための布又はビニール袋を持参させ，外した際の保管にも注意させる。

### (3) 換気

- ・少なくとも30分に1回以上、2方向の窓を同時に広く開ける。(対角線上の窓を開けることが効果的)
- ・窓のない部屋は、入り口を開ける、換気扇を用いるなどの対応をとる。
- ・体育館等の広い部屋でも、窓の開放等により換気を行う。
- ・可能な限り常時、2方向の窓を開けておくことが望ましい。
- ・冷暖房設備使用時においても、換気の時間を設定する。
- ・熱中症対策として、換気による暑さ指数(WBGT値)の変化にも留意し、適切に冷房設備を使用する。

### (4) 身体的距離(ソーシャル・ディスタンス)の確保

- ・児童生徒同士及び児童生徒と教職員の間隔を1m程度空けるようにする。
- ・1mの距離を確保できない場合は、できるだけ距離を離し、換気を十分に行うことや、マスクを着用することなどを併せて行うことにより3密を避ける。
- ・間隔を最大限確保できるような机の配置を教室ごとに工夫する。
- ・集合・整列する場面では、間隔を空けて目印を置くなど、児童生徒の立つ位置が分かるように工夫する。



図：「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」より、レベル1地域の参考例

### (5) 消毒(清掃)

- ・教室やトイレ、その他教育活動を行った場所のうち、ドアノブ、手すり、スイッチなど、多くの児童生徒が触れる場所は、次亜塩素酸ナトリウムを濃度0.05%に薄めた消毒液(市販の漂白剤を薄めることで作ることができる)で、1日1回以上、消毒を実施する。
- ・児童生徒が共用する教材・教具は、使用する前に消毒する。  
併せて、ドア(ドアノブ含む)や水道蛇口などに触れる回数を減らす取り組み(ドアの開放、レバー蛇口への付替えなど)を進めること。

### (6) 健康観察

#### ① 体調管理

- ・児童生徒の健康状態を確認する組織体制を確保する。
- ・家庭との連携により、毎朝の検温及び体調管理を徹底する。
- ・発熱等の風邪の症状がみられる児童生徒及び教職員は、自宅で休養することを徹底する。
- ・登校時に「健康観察表」などを活用して児童生徒の検温結果及び健康状態を把握する。家庭で体温や健康状態を確認できなかった児童生徒等については、教室に入る前に、保健室や職員室等に入室するように指導し、検温及び健康観察等を行う(体温計は使うたびに消

毒する)。その際、複数の児童生徒に対応できるように校内で連携して対応する体制を整える。

- ・登校後、発熱等の風邪の症状がみられる場合には、保護者に連絡して、自宅で休養させる。その際、安全に帰宅できるまでの間、学校にとどまる場合には、他の者との接触を可能な限り避けられるよう、別室で待機させるなどの配慮をする。

## ② 熱中症対策

児童生徒が学校の生活に慣れていないこと、7月後半～8月にも授業を実施する場合があることから、例年よりも熱中症の対策が重要。

- ・暑さ指数（WBGT値）を考慮して授業等を実施する。マスクの着用で熱がこもることに配慮する。
- ・水筒を持参させ、登下校時や休み時間等に水分補給をさせるとともに、活動時にはこまめに休憩を取らせる。
- ・室内環境に配慮し、冷暖房と換気を併用する。

## (7) 出席の判断及び指導要録上の取扱い

### ① 感染が疑われる場合

- ・PCR検査を受けた者・・・結果判明まで出席停止，教職員は療養休暇

※十分に健康観察を行うこと

検査を受けること及び検査結果を学校が把握し、市町村教育委員会に報告すること。

### ② 感染者及び濃厚接触者が出た場合

- ・感染者（患者）・・・完治（PCR検査において2回陰性）するまで出席停止，教職員は療養休暇
- ・濃厚接触者・・・感染者と濃厚接触があった日から14日間出席停止，教職員は特別休暇（PCR検査結果が陰性と判明しても期間は短縮しない）

<濃厚接触者：患者が発病した日の2日前から接触した者のうち次に該当する者>

- 感染が疑われる者と同居あるいは長時間の接触があった者
- 対面で会話することが可能な距離（目安として1m以内で15分以上）で感染予防なしで患者と接触があった者（患者の症状やマスクの使用有無等から総合的に判断）

### ③ 登校前の検温で発熱がある場合，咳，喉の痛み等の風邪の症状がある場合

- ・「出席停止」として記録する。

### ④ 海外から帰国した児童生徒が2週間の自宅等での待機を要請された場合

- ・「出席停止」として記録する。

### ⑤ ①～④ではないが，保護者が感染を心配して休ませたいと申し出た場合

- ・欠席させたい事情をよく聴取し，学校で講じる感染症対策について十分説明する。
- ・その上で，感染の可能性が高まっていると保護者が考えるに合理的な理由があると校長が判断する場合には，「出席停止・忌引等の日数」として記録することができる。

## (8) 感染者が出た場合の学校の対応

- ・児童生徒や教職員の感染が確認された場合，設置者は，濃厚接触者が保健所により特定され

るまでの間、学校の全部または一部の臨時休業を実施する。

- ・その後、設置者は、保健所や学校医と相談して感染者の学校内での活動状況や地域の感染拡大状況を踏まえ、学級単位、学年単位又は学校全体の臨時休業の措置を検討する。

※休業範囲については以下のようなことが考えられる。

- ① 他学級との交流なし ⇒ 学級単位の休業  
\*欠席していたなど、学級内においても交流が認められない場合はこの限りではない。
- ② 他学級との交流あり ⇒ 学年単位の休業
- ③ 他学年との交流あり ⇒ 学校全体の休業
- ④ 活動範囲の把握困難 ⇒ 学校全体の休業

- ・校内の消毒を十分に行う。
- ・保健所が、感染者本人に行動履歴等をヒアリングし濃厚接触者を特定するが、学校においても把握に努める。
- ・濃厚接触者を含む学校全体の健康観察を徹底する。

## 2 登下校について

校門や玄関口等での密集が起こらないよう指導するとともに、状況によっては、登下校時間帯を分散させるなどの工夫も検討する。感染防止に配慮しながら、交通安全・犯罪被害防止にも注意を怠らないようにする。

### (1) 徒歩・自転車の場合

- ・原則としてマスクを着用し、向かい合わせになることや会話を避ける。
- ・熱中症対策にも留意する。

※登校時の熱中症への配慮例

水筒を持参し、交通安全に配慮して給水する。

帽子を着用したり、半袖体操服で登校したりするなど、服装に配慮する。

熱中症対策のためにマスクを外すこともできる。

### (2) スクールバスの場合

- ・可能な範囲でコース変更や運行方法の工夫等により、過密乗車を避ける。
- ・運行前に、多くの児童生徒が触れる手すり、つり革、窓枠等を消毒する。
- ・児童生徒にマスクを着用させ、会話を控えることや手洗いや咳エチケット等を指導する。
- ・児童生徒の状況に配慮しつつ、定期的に窓を開け換気を行う。(冷暖房使用時も)
- ・可能な限り間隔を空けて着席させる。

## 3 学校での活動について

### (1) 朝の会、帰りの会、集会等

- ・朝の会では健康観察を丁寧に行うとともに、児童生徒の不安な気持ちについても表情の観察や生活ノートなどを通して把握に努める。
- ・集会は、放送で実施する、児童生徒の間隔を空けて実施する、換気を十分に行うなど、3密を避ける対応を工夫する。
- ・当分の間、歌唱や、児童生徒同士が接触したり近い距離で対面したりする活動は行わない。

## (2) 授業

### ① 基本的な配慮

- ・机の間隔を空け、対面での机の配置をしない。
- ・大声での発言を避ける。
- ・感染症対策を講じた上で、新学習指導要領において示している主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うよう工夫する。

<例>

- ・ICTの活用による資料の提示や意見の共有
- ・ホワイトボードや付箋等を使った意見交換 など

- ・次に挙げた学習活動は、感染のリスクの高いものであるが、リスクの低い学習活動に替えたり、指導順序を変更したりして対応するほか、短時間での実施とする、距離を十分に確保するなど対策がとれるのであれば、実施することもできる。

<例（★は特にリスクの高いもの）>

- ★児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等
- ★近距離で一斉に大きな声で話す活動
- ★音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ★家庭、技術・家庭科における「児童生徒が近距離で活動する調理実習」
- ★体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」
- ・理科における「室内で児童生徒が近距離で活動する実験や観察」
- ・図画工作、美術における「児童生徒が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ・学校外の人物と交流する活動（ゲストティーチャーを招く、校外の事業所等を訪問する等）

### ② 体育・保健体育の授業について

#### (ア) 基本的な考え方

- ・全ての運動領域において、可能な限り感染症対策を行った上で実施する。ただし、児童生徒が密集する運動、近距離で組み合ったり接触したりする運動については、実施内容を検討する。
- ・指導順序の変更や家庭における学習の組合せによる指導計画の立案など、指導計画の見直しを検討する。
- ・運動不足や体力の低下が懸念されるため、準備運動や整理運動を十分に行うとともに、運動時間や運動強度を調整する。

#### (イ) 感染症対策

- ・健康観察を行う。
- ・換気をこまめに行う。
- ・密集、密接を避ける（着替え、集合、活動中等）。
- ・共有の用具や器具は適切に消毒する。
- ・授業前後の手洗いを徹底する。

#### (ウ) その他留意事項

- ・適切に熱中症対策を講じる。
- ・「マスク着用の必要性」及び「水泳授業の取扱い」については、事務連絡「学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について」（令和2年5月21日 スポーツ庁）及び事務連絡「今年度における学校の水泳授業の取扱いについて」（令和2年5月22日 スポーツ庁，文部科学省）を参考にし，各学校の実態に即して柔軟に取り組む。

### (3) 休み時間，清掃活動

#### ① 休み時間

- ・休み時間中の行動には教員の目が必ずしも届かないことから，児童生徒本人に感染症対策の考え方を十分理解させるとともに，必要なルールを設定するなど指導を工夫する。
- ・トイレ休憩が混雑しないよう，時間や動線を指示する。
- ・会話をする際には距離を保つようにする。

#### ② 清掃活動

- ・十分な換気を行いながら，マスクを着用して実施する。
- ・ほうきやモップなど，共用する用具は使用する前に消毒する。
- ・清掃後は，必ず石けんを使用して手洗いを行う。

## 4 給食について

### (1) 給食の時間の留意事項について

#### ① マスク着用

給食の時間（配膳等）におけるマスクの着用は，くしゃみ又は咳の飛沫を防ぐ等，食品衛生上の危害の発生を防止するものであるため，必ず使用すること。

#### ② 手洗い

給食当番はもとより，児童生徒等全員が給食前後に必ず流水と石けんでの手洗いを徹底すること。また，流水で十分な手洗いができない場合には，アルコールを含んだ手指消毒薬を使用すること。

#### ③ 配膳等

- ・給食の配膳を行う給食当番や教職員に対し，配膳前に再度健康観察を行い，適切でないと認められる場合は給食当番を代えるなどの対応をとる。（下痢，発熱，腹痛，嘔吐等の症状の有無等）
  - ・衛生的な服装を徹底する。（エプロン，三角巾，マスクの着用）
- ・配膳時は，会話をせず，できる限り1m程度の間隔を空けて一人ずつ順番に食品を取るなど，学級の状況に応じた配慮を行う。
  - ・盛り付けの際は，トング等の使いまわしをしないよう，担当者を決める。
  - ・一度配膳されたものを食缶等に戻さない。
  - ・おかわりの配膳は，担任等が行うなど，衛生及び感染予防に配慮する。

#### ※配膳の工夫例

- ・おかずや汁物は，学級担任などの教職員が盛り付けをする。

#### ④ 会食時

- ・会食は，机を向かい合わせにせず，座席の間隔を1m程度離し，飛沫を飛ばさないよう，会話を控えるなどの対応を行う。
- ・会食中は，マスクを外すため，机上にティッシュやハンカチ等を置き，いつでも使用できるよう

にするなど、咳エチケットを徹底する。

※会食の工夫例

- ・教室以外の場所も使用し，食事場所を分散させる。

⑤ 後片付け等

- ・食器等の後片付けを行う場合には，マスクを着用し，できる限り1 m程度の間隔を空けて一人ずつ順番に行う，他の児童生徒の使った食器を触らないようにするなど，学校の状態に応じた配慮を行う。

⑥ 昼食後の歯みがき

- 手洗い場の密集を避ける等，感染防止に配慮する。

※歯みがき時の配慮例

- ・歯みがきの実施に当たり，学校歯科医等と事前に協議する。
- ・教室で行う際は，換気に十分注意する。
- ・歯みがきは，なるべく口を結んで行う。
- ・すすぎは10 mlくらいの少ない水で，1～2回のブクブクうがいをする。
- ・手洗い場が混雑しないように工夫する。

## (2) 学校給食施設等に関すること

学校給食の実施については、「学校給食衛生管理基準」に基づいた定期衛生検査や調理作業，配食等を遵守する。

① 給食再開前

- ・学校給食再開にあたっては，調理場内の施設・設備等の十分な洗浄・消毒を行う。

② 給食再開後

- ・食品納入業者（牛乳，パンなど）に対しても，白衣・帽子・マスク着用，手指消毒を徹底させる。
- ・学校給食従事者（受配校の配膳員及び配送者職員含む）の健康状況等の確認及び記録を確実にを行う。また，体調等に変化があった場合には，作業中であっても衛生管理責任者等に申し出ることなどを徹底する。
- ・学校給食従事者（受配校の配膳員及び配送者職員含む）が休憩する場所は，3密にならない対策（部屋の換気，向かい合わせにならない食事，マスクを着用した会話等）を行う。
- ・献立の作成及び調理作業は，学校給食衛生管理基準に基づき，衛生的な作業工程及び作業動線となるよう配慮する。
- ・調理後の食品は，適切な温度管理を行い，調理終了後2時間以内に喫食できるよう，関係機関と連携を図り，適切に対応する。

③ 夏季の衛生管理等について

- ・夏季に給食を提供する場合には，傷みにくい献立にして細菌の増殖等が起こらないようにするなど，衛生管理に十分留意する。また，冷蔵保管及び冷凍保管する必要のある食品については，常温放置しないよう十分留意する。
- ・学校給食従事者（受配校の配膳員及び配送者職員を含む）の熱中症対策を十分に講じる。

## (1) 基本的な考え方

- ・可能な限り感染症対策を行った上で通常の活動を行う。
- ・児童生徒の検温，健康観察を行い，風邪等の症状がある場合は参加を見合わせ，自宅で休養するよう指導する。（指導者も同様）
- ・活動再開に当たっては，活動目的や活動内容及び計画について，児童生徒・保護者に十分な説明を行った上で実施するとともに，参加を強制しない。
- ・各競技団体等より，別途通知が発出されている場合は，通知内容を基に活動内容を検討する。
- ・運動部活動においては，運動不足や体力の低下が懸念されるため，まずは，体力の回復につながる運動を一定期間行い，徐々に運動時間や運動強度等を増やしていくことが望ましい。特に，適切に熱中症対策を講じるとともに，新入生の練習参加については十分な配慮を行う。
- ・「茨城県部活動の運営方針」を準拠し，短時間で効果的な活動の実現に積極的に取り組む。

## (2) 感染症対策

### ① 活動場所について

- ・屋内で実施する場合は，ドアを広く開け，こまめな換気や消毒液を設置するとともに，児童生徒が手を触れる箇所の消毒を徹底する。また，長時間の活動を避け，十分な身体的距離を確保できる少人数による活動とする。

### ② 用具等について

- ・器具や用具等については，消毒できるものは使用前に消毒を行うとともに，児童生徒間で不必要に使い回しをしない。

### ③ その他

- ・ミーティングは，密集を避け，指導者と児童生徒，児童生徒間の距離（1 m程度）をあけて実施する。
- ・部室，更衣室等の利用については，短時間の利用とし一斉に利用することは避ける。

## (3) 練習試合，合宿の実施について

- ・会場への移動時や会場での更衣室の利用時など，スポーツ活動以外の場面も含め，各部ごとに対応策を講じるのではなく，学校として責任をもって感染症対策を行う。
- ・県外の学校との練習試合，合宿は，今後の感染状況や競技の特性を考慮した上で，実施を妨げるものではない。なお，部活動を担当する教員のみで決定するのではなく，学校として実施の必要性を協議し判断する。
- ・文化部における合同練習等についても同様の対応とする。

## 6 学校行事の実施について

### (1) 基本的な考え方

- ・学校行事は，児童生徒の学校生活に潤いや，秩序と変化を与えたりするものであり，それぞれの行事の意義や必要性を確認しつつ，実施する学校行事を検討する。
- ・その上で，感染症拡大を予防しながらねらいが達成できるよう，開催する時期，場所や時間，開催方法，準備の方法等について，前例にとらわれず検討する。

### (2) 修学旅行



- ・実施については、感染防止対策を最優先として、実施の時期や交通手段、方面などについて検討する。

### (3) 運動会等

- ・実施に当たっては、3密とならないよう、実施内容や方法（例えば、半日での開催など）、実施時期を検討する。
- ・児童生徒が密集する運動や、児童生徒が近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動については、実施を見合わせることも考えられる。
- ・開閉会式での児童生徒の整列、児童生徒による応援、保護者等の参観、児童生徒や保護者が昼食をとる場所等についても、一度に大人数が集まって人が密集しないような工夫をするとともに、保護者等に対しても、手洗いや咳エチケット等の基本的な感染症対策を徹底する。

### (4) 健康診断

- ・健康診断は毎学年6月30日までに実施することとされているが、実施体制が整わない等、やむを得ない事由によって当該期日までに健康診断を実施することができない場合には、当該年度末日までの間に、可能な限りすみやかに実施する。
- ・健康診断を延期する場合は、特に、日常的な健康観察や保健調査票の活用等により児童生徒等の健康状態の把握に努め、必要に応じて、学校医等と連携し、健康相談や保健指導等を適切に実施するとともに、健康診断の延期について保護者に周知し、理解を得る。
- ・特に、心臓や腎臓等の疾患や結核に関する検査については、学校医等と相談の上、可能な範囲で先行して実施する方法も考えられる。
- ・健康診断の実施の判断や実施の方法等については、学校医、学校歯科医、関係機関等と十分連携し、共通理解を図る。

#### <実施上の配慮>

- ・日程を分けて実施する
- ・児童生徒等及び健康診断に関わる教職員全員が、事前の手洗いや咳エチケット等を徹底する
- ・部屋の適切な換気に努める
- ・密集しないよう、部屋には一度に多くの人数を入れないようにし、整列させる際には1～2mの間隔をあける
- ・会話や発声を控えるよう児童生徒等に徹底する
- ・検査に必要な器具等を適切に消毒する など

### (5) その他の行事における工夫の例

- ① 文化的行事（学習発表会、音楽会、クラブ発表会、文化祭など）
  - ・小グループやパートごとの練習を基本とし、全員で集まって練習する機会はリハーサルのみとする
  - ・学年ごとの発表を映像や音声にとり、校内放送で流す など
- ② 遠足・集団宿泊的行事（小学校）、旅行・集団宿泊的行事（中学校）
  - ・バス等による移動に際して、車内の換気に十分留意し、マスクを着用し、余裕をもって座

れるようにする など

- ③ 勤労生産・奉仕的行事（校内美化活動や地域清掃など）
  - ・大掃除は、日頃の清掃指導を徹底し、回数等を精選する
  - ・校外活動は、一斉ではなく、グループに分かれて時期や場所をずらして実施する など
- ④ 健康安全・体育的行事（避難訓練など）
  - ・避難訓練や引き渡し訓練、防犯訓練などについて、各教室で事前指導を十分に行い、全体での時間をかけずに実施できるようにする

## 7 心のケアについて

- ・感染への不安、長期の休業から学校生活に戻ることに不安、制限された生活へのストレス等、アンケート調査や個人面談等による児童生徒の心の変化の把握に努め、心配される児童生徒には、担任や養護教諭による相談等の実施やスクールカウンセラー等による支援を行う。
- ・特に、部活動などの目標が失われたり、受験への不安を抱えたりしている児童生徒への支援に留意する。
- ・児童生徒の悩みやストレスを広く受け止めることができるよう、「子どもホットライン」や「いばらき子ども SNS 相談 2020」など相談窓口の周知を図る。
- ・長期休業明けに自殺者が増える傾向があることを踏まえ、保護者に対して家庭における見守りを行うよう促すとともに、児童生徒の変化には、担任等が一人で抱え込むことなく、チームで対応することを徹底し、気付いたことを共有し合う。
- ・感染者や濃厚接触者、医療従事者の家族や外国籍児童生徒等への差別や偏見、いじめ等は絶対に許されないことの指導を徹底する。
- ・長期休業となる以前から長期欠席（不登校を含む）している児童生徒に対して継続的に支援を行うとともに、新たに不登校の兆候が見られる児童生徒に対しては、保護者との連絡を密に取ることに加え、専門スタッフと連携協力するなど、初期の対応を徹底する。
- ・長期休業期間中に、虐待等が生じていないか注意深く観察し、異変を察知した場合には、関係機関と連携し迅速に対応する。

## 8 教職員の勤務における留意点について

- ・教職員も、手洗いや咳エチケット、マスクの着用を徹底する。
- ・毎朝の検温や風邪症状の確認を行い、症状がある場合は自宅で休養する。  
なお、新型コロナウイルス感染症に関する休暇の取扱い等については、教総第 1102 号「新型コロナウイルス感染症に関する休暇の取扱い等について（通知）」（令和 2 年 3 月 4 日 茨城県教育委員会教育長）によるものとする。
- ・職員室等における勤務については、可能な限り他者との間隔を確保（おおむね 1～2 m）し、会話の際は、できるだけ真正面を避ける。
- ・職員室内に十分なスペースを確保できない場合は、空き教室等を活用して校内で分散勤務することも検討する。
- ・職員会議等を行う際は、最少の人数に絞ること、換気をしつつ広い部屋で行うことなどの工夫や、オンライン会議システムの活用などを検討する。
- ・県外への出張については、その必要性を検討する。